■第８回　小金井市中間支援組織設立検討委員会　議事録■

◆日　時：平成 26 年 7 月 30 日（水）14:00～16:00
◆場　所：商工会館 2 階会議室
◆出席者：委員　内田雄二、木下美智子、益田智史、林大樹（委員長）、斉藤浩、清水勉（副委員長）、髙橋金一、藤本裕（市・市民部長）、今井啓一郎、大森康雄
（欠席長島剛、森田眞希）
◆事務局：市民部経済課　當麻光弘（経済課長）、田嶋隆行（経済課産業振興係長）
小金井市商工会産業振興プラン推進室　黄金井の里（立川室長・千葉）
：運営事務受託　特定非営利活動法人カッセ KOGANEI（黒崎・木藤、他５名）
◆傍聴者：０名

◇　議事要旨　◇

１．委員長挨拶等

本委員会もそろそろ大詰めを迎えており、市長に提出する提言書の構成も視野に入れて、十分な議論を行っていきたい。

（資料確認及び報告）

事務局から本日の配布資料である資料２１の「提言書の構成案」について以下のように説明した。

Ⅰ．設立検討の背景（現時点では、市が考える現状と課題として記載）

現在の「黄金井の里」の設立の経緯、また設立を検討する中間支援組織には様々な機能が求められること、「事業運営組織としての役割よりは『地域をコーディネートする』比重を置いた組織」、「運営費用は、行政丸抱えではなく「オール小金井」で支えられる仕組みを持った組織」であることが特に求められていること、現在の「黄金井の里」のように商工会の中に位置づけられている中では、幅広い活用が難しいこと、財源的な面からは自主独立的な組織を目指すものであるが、当面の難しい間は市からの財政支援も考えられる旨を説明した。

Ⅱ．中間支援組織に求められる事項

特にマッチング機能が重要であること、また幅広い分野の組織をつなぐこと、これまでの議論を踏まえた「目的・役割」、その「取り組み」、「求められる人材」、「組織構成」、「財源の確保」についての考え方を説明した。

Ⅲ．実施にあたっての展開

本委員会終了後には早々に準備組織を設置する。また来年度以降策定する次期産業振興プランへ反映させること、９月の提言を目指すこと、１０月には準備組織を立ち上げたい旨、説明した。

など。

委 員 長：事務局から提案のあったこの提言書にはいろんな要素が詰まっている。予定では今日を含めて委員会はあと３回であり、２回前である次回の８月１１日（第９回）の委員会に向けて、これまでの中では十分議論が出来ていないところ、合意が得られていないところをポイントだけでも議論したいと考えている。また資料１９をベースにしつつ、資料２１に即した議論をしていきたい。また進め方等についてのご質問があればどんどん出して頂きたい。まずはⅠ章から議論していきたい。

２．議事

（1）中間支援組織のモデル案の検討および提言書について

内田委員：資料２１「Ⅰ．設立検討の背景」中、２ページ下部に「自主独立」との文言があり、一方で「産業振興プラン」の推進組織という位置づけがあるが、この両者を同時に行う事は難しいのではないか。あるいは矛盾してはいないか。組織の位置づけについてはっきりさせておいた方が良いと思われる。

委 員 長：組織の根源にあたる部分であり、役割、位置づけについて議論をしておきたい。

清水委員：提言書の案は従来出ていた資料から得られたものと理解しているが、議論の内容が十分に反映されていないと感じる。

事 務 局：何が反映されていないか、ご指摘頂けると有難い。

内田委員：中間支援組織の機能の区別が非常に難しいと思われる。実際の事業を行う実行部隊なのか、あるいはマッチング等のつなぎ役に徹するのか。できる役者が全て揃っているとは限らない。一つの事項は事業やマッチング機能を置いておいて片手間にできるような性質のものではない。あくまで事務局機能としての役割を考えるべきではないか。自主財源の確保も非常に難しい問題である。全ての事業にエネルギーを集中できるかどうかわからないのではないか。

委 員 長：中間支援組織は「産業振興プラン」の推進役なのか、マッチング機能を主とした組織なのか、「産業振興プラン」の中にどう位置づけられるのか。実はこの「提言書の構成案」の本文には矛盾があるということではないか。

髙橋委員：他の町の同類の組織との比較を考えた場合に、農地も含めた地域資源を活用しながら新たな産業や起業ができることなど、小金井オリジナルのものがないとだめではないか。その点にもっと視点を置く必要がある。また、何度も言っていることだが、こうした組織を立ち上げる際には、市や商工会も含め関係団体がある主の覚悟をもって取り組まないと難しいと思う。

斉藤委員：そもそもこの「提言書の構成案」は文章が難しい。もっと平易な文章にすべきである。また個人的には中間支援組織の機能としてはコーディネートを重視した組織であるべきであり、事業主体にはなるべきではないと考える。ポイントとなるのは組織設立後の有償スタッフでなく、無償スタッフの構成である。コーディネートをするには無償スタッフの方が大事である。同時に有償スタッフの陣容を明確にすべきである。またつなぐ相手方についてそのメリット、デメリットを明確にしておくべきではないか。

今井委員：出だしの文章から難しく、自分にとっても読みにくい文章である。市長へ提出する場合はある程度こういう書きぶりになるかもしれないが、もう少し考慮してほしい。

藤本委員：経緯のような出だしから記載するとこのような形になると思われる。今後の中間支援組織像については大筋書かれていると思う。今後求められる事項というものを上げて頂いて、それについて追加して記載していくものだと思われる。

事 務 局：行政の文書は誤解を避けるため、装飾が多くなりがちである。しかし、この提言書は委員会から市に提出されるものであるため、平易な文章に改める。

木下委員：文面は確かに難しいが、「黄金井の里」の設立検討の経緯はよくわかった。「Ⅰ．（２）現状と課題」がこの内容でいいのかは今一度確認が必要かもしれない。

黄金井の里：これまでの流れを細かく書いたものが今回の案である。あくまで文章は入口であってそれ以上のものではない。

事 務 局：市の支援についての記載は前提条件にあったものではなく、議論の中で新たに示したもの

であるため、記載することは適当でなかったかもしれない。

藤本委員：市の産業振興プランに沿いつつも、市民力の活用やコーディネート機能など、弱かった現状を変えるということではないか。提言書案は、その為の人材、組織像を描くものではないかと思う。

清水委員：それは市の「産業振興プラン」の推進とともに、もう一つ何か役割があるかということか。

内田委員：市に問いたいのは、「黄金井の里」と「新しい中間支援組織」の２組織あるいは機能の並立を意味するのかどうなのかということである。

藤本委員：それも含めて検討をするという意味である。

大森委員：文章の書きぶりとして、単純なことを難しく書いている印象がある。これでは商工会のメンバーも分からない。市に提言するものと、広く市民に知らせていくものと整理してほしい。「黄金井の里」について、これまでに取り組んでいる事業などは無視できないと思う。現実的に考えれば、中間支援組織の本来の機能を優先するとなると、これまでのような事業を推進することは難しいと思う。ただ、それぞれの事業の推進団体が育っていないとそこも難しい。こうした点も踏まえて、市、中間支援組織、事業の推進団体、それぞれの役割を明確にしていく必要があると思う。当然、市は今まで以上に担っていく部分も出てくるのではないか。また、財源の面で「一定」という表現はふさわしくない。「しばらくの間」などというのが適切ではないか。そもそも平成２７年度に「黄金井の里」への市からの支援が終了するというのは失策に近いとすら思われるが、これをどのように埋め合わせていくのか、議論しながら整理することが大事だと思う。

益田委員：中間支援組織は「黄金井の里」の発展形であるということを明記するべきであろう。

委 員 長：ここで資料１９における中間支援組織の「目的・役割」、「基本的な事業内容」についておさらいをしておきたい。

内田委員：中間支援組織が設立されるとして、「産業振興プラン」の推進組織たる「黄金井の里」がやっていた既存事業の扱いはどうするか、それらの事業を両方とも新しい中間支援組織でやるのか、その辺りの整理が必要ではないか。市の支援も将来どうなるかが不明な中で、例えば出来ることだけを明記するとか、あるいは「産業振興プラン」の推進にあたって漏れてしまうべき事項が必ずでてくるが、この部分についての扱いはどうするのかが問題と考えている。

事 務 局 ：「産業振興プラン」上における全ての事業を「黄金井の里」だけでやっている訳ではない。

清水委員：自分は「産業振興プラン」の推進組織という位置づけではなく、白紙から考えた方が良いと思う。コーディネート機能に特化した組織といった書きぶりの方が、新しい組織としての縛りは少ないのではないか。

大森委員：中間支援組織像を語るにあたって、「黄金井の里」を考慮しなくてよいということではないと思う。

黄金井の里：組織が並立するのかどうかという点は本来問題ではなかった筈で、「産業振興プラン」の推進組織あるいは幅広いマッチング機能の充実か、その強弱の問題が本委員会の原点だったはずで、現在「黄金井の里」以外に、それらの機能を進める推進拠点があるかどうか、これまでの事業に加えて、例えば子育て、福祉、スポーツに等に関する起業支援等を行う、といったように「黄金井の里」を原点にしつつ、発展させようという考え方はいかがか。

内田委員：趣旨については賛成する。ポイントは「黄金井の里」が不十分なところを補って新しい形に発展させていくことだと思われる。

清水委員：そのようなやり方では「産業振興プラン」の推進が先立ち、結果として不十分なものができてしまうという懸念がある。そのようにならないためには、「産業振興プラン」の推進組織という位置づけではなく、新しい分野と機能を重視する新しい組織であるということを明記した方がすっきりするのではないか。つまり「黄金井の里」とは分けて考えるべき。現に今の「黄金井の里」は既存の事業をやるだけで精一杯であり、それ以上のものを行う余裕がないと思う。

委 員 長 ：「産業振興プラン」の推進機関という位置づけに留まらず、幅広い市民力を生かす組織に生まれ変わる、すなわち機能の比重を逆転させるという論点については、本委員会として非常に重要な段階にきているということを意味する。各委員からご意見を頂きたい。

斉藤委員：実行部隊でなく、マッチング機能に特化した組織形態を希望する。

内田委員：自分は両方を望む。またこれまでの課題を改善し、共有化し、比重の逆転を図ることが重要である。

木下委員：現実は難しいが、両方やった方がよいと考える。

益田委員：現在の「黄金井の里」を軸に考えるとすれば、両方目指すべきである。

今井委員：「黄金井の里」の現在の事業の内容によるのではないか。

大森委員：「黄金井の里」の事業について市が結論をしっかり出すべきではないか。

藤本委員：新しい中間支援組織は「産業振興プラン」の推進組織ということではなく、「その一躍を担う」というような書きぶりで収めることが出来るのでないか。

内田委員：そもそも本委員会の問題設定にボタンの掛け違いがあったのではないかと考えている。今産業振興について、市内で求められる不十分な機能は何か、また「黄金井の里」が市役所の支援を受け、商工会の下部組織に位置づけられていることの是非の問題を第一のテーマにして議論すべきであった。新しい「産業振興プラン」に盛り込むべき実行の中核部隊として大丈夫なのか、あるいは新しい中間支援組織の設立が、新しい「産業振興プラン」において実施すべき事業の中において漏れが出てくることにはならないのか。市や商工会の見解を聞きたいと思う。

清水委員：中間支援組織と「黄金井の里」との関係については、「産業振興プラン」次第であり、それ次第となると思う。

今井委員：内田委員の見解を今一度見直して、再検討する価値はあると思う。

委 員 長 ：本日上がってきた２つのストーリー、すなわち産業振興プランの推進役としての「黄金井の里」の発展形として考えるのか、あるいは新たな機能に特化した組織として考えるのか如何に提言書に盛り込むかが問われている。

清水委員：あくまで何をやる組織かが重要である。社会において求められることは、以前の資料にもあったように、教育・文化・福祉・子育て・スポーツなども含めて産業振興の視点から捉えていくことではないか。このようなニーズに対応していくことが大切であり、あくまで小金井らしい地域資源の活用を目指していくべきである。

内田委員：どちらのストーリーも賛成するのは条件付きである。予算や体制・人材の裏付けがない事業をどうやって実行していくかということがあくまで課題として残っている。

藤本委員：市は、「黄金井の里」の将来像、発展形について考えるべきではないかと考える。

委 員 長：次回以降、２つのストーリーをどのようにしていくか、資料もそのことを踏まえ、体制・財源等の問題について議論をしていきたい。

３　その他

事務局から、今後の委員会の予定として第９回委員会を８月１１日（月）の１５：００から萌え木ホールで、第１０回委員会を８月２６日（火）１４：００から商工会館２階大会議室で行う事について確認した。